

総務文教常任委員会資料

令和4年4月11日

市民協働部人権協働課

1. 集落健診調査の結果について（別添冊子）

令和3年度
加東市集落健診調査に係る
結果報告書

令和4年3月
加東市

目 次

1. 調査の実施概要	1
(1) 調査実施の趣旨	1
(2) 実施概要	1
(3) 報告書の見方	1
2. 調査結果	
【1. 人口・世帯・高齢化率の状況】	
(1) 世帯数・高齢化率の分布状況（集落数）	2
(2) 10年間（2010→2020年）の増減状況	2
(3) 人口増減率（2010→2020年）の分布状況	3
【2. 農業関係】	
(1) 農地の荒廃状況	4
(2) 国の主な地域政策の取組状況	4
【3. 集落の現状】	
(1) 自治会の加入戸数	5
(2) 住民の大半が集う寄り合い回数	6
(3) 共同活動（作業）回数	6
(4) 住民の大半が参加する行事数	7
(5) 集落内の団体・組織数	8
(6) 集落の公民館からの自動車での所用時間（集落数）	9
(7) 空き家の状況	9
(8) 地域農業の担い手の状況	10
(9) 集落の共有財産の所有状況	10
(10) 集落の今後（将来）についての話し合い	11
(11) 自治会の会合における世帯主以外の参加可否	12
(12) 自治会以外も含め集落内の「女性」や「若者」の話し合いの場への参画	13
(13) 自治会の三役への役割集中と集落内組織の機能	13
(14) 地域活動のリーダーと後継者の状況	14
(15) 移住者受入希望の有無	14
(16) 移住者との関係	15
(17) 集落の共同作業や活動への移住者の参加状況	15
(18) アドバイザーなど外部人材を招いた学習会や先進地視察等の実施	16
(19) 都市部の住民や団体等との交流の実施	16

(20) 農産物販売促進に向けた集落の PR の実施	17
(21) 地域資源の PR の実施	18
(22) 今後の集落存続意向	19
(23) 周辺集落との連携有無	20
(24) 今後の周辺集落との連携意向	21
(25) 旧小学校区など広域的な組織との連携有無	21
(26) 今後の広域的な組織との連携意向	22
(27) 集落の活性化に向けた取組や活動の有無	23
(28) 今後の集落活性化に向けた取組や活動の意向	24
(29) 「地域再生大作戦」の認知度	25
(30) 集落を維持・運営していく上で、特に困っていること	25
(31) 集落を維持していくための意見	33

1. 調査の実施概要

(1) 調査実施の趣旨

少子高齢化や価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化など、地域社会を取り巻く環境は変化しています。その変化に対応するための取り組みとして、「協働」を加東市のまちづくりの基本としています。

地域と市が協働して地域づくりを進めるための第一歩として、地域の現状を見える化（可視化）することを目的に、市内全地区・自治会を対象とした「集落健診調査」を実施しました。調査結果は、地域と市が、現状を共有し、課題の解決に向けて連携・協力して取り組むための基礎資料とします。

(2) 実施概要

調査対象：市内全地区・自治会

調査時期：令和3年7月～9月

調査方法：各地区区長（自治会長）への郵送によるアンケート調査票の配布・回収

回収数：92件

回収率：95.8%

(3) 報告書の見方（留意事項）

- 本報告書において「集落」とは、令和3年4月時点で加東市区長会に属する地区・自治会を言います。
- 本報告書は、加東市全体の状況を示した「1. 人口・世帯・高齢化率の状況」及び「2 農業関係」と、集落健診調査の結果を集計した「3. 集落の現状」から成ります。
- 「1. 人口・世帯・高齢化率の状況」のうち、集落を対象とした「(1) 世帯数・高齢化率の分布状況」及び「(3) 人口増減率の分布状況」は、今回調査対象とした市内96の地区・自治会を母数としています。一方、「(2) 10年間の増減状況」は、自治会組織のない区域の人口を含む、加東市全体の状況を示しています。
- 「2. 農業関係」のうち、「(1) 農地の荒廃状況」は、集落健診調査で記入された遊休農地面積の合計を、荒廃面積としています。
- 集落健診調査は各地区区長（自治会長）へのアンケートにより実施しました。「3. 集落の現状」に掲載する内容は、アンケートへの回答結果を集計したものであり、市が保有する情報と乖離が生じています。

2. 調査結果

【1. 人口・世帯・高齢化率の状況】

(1) 世帯数・高齢化率の分布状況（集落数）

令和2年3月時点で、市内全96集落のうち、1割弱に当たる8集落が小規模集落に該当します。

兵庫県では、世帯数50戸以下、高齢化率40%以上の集落を小規模集落としており、加東市においても同じ扱いとしています。

注：世帯数は、住民基本台帳上の値であり、自治会加入数とは異なります。

	高齢化率	世帯数										計	
		9戸以下	10~19戸	20~29戸	30~39戸	40~50戸	51~100戸	101~500戸	501~800戸	801~1,000戸	1,000戸~		
	0~9%						1	3	1				5
	10~19%						1	3	1		2		7
	20~29%						3	8	2		1		14
	30~39%		1	1	5	4	17	13					41
	40~49%		1		2	3	11	10					27
	50~59%			1	1								2
	60~69%												0
	70~79%												0
	80~89%												0
	90~100%												0
	計		2	2	8	7	33	37	4	0	3		96

資料) 令和2年3月末の住民基本台帳

(2) 10年間（2010→2020年）の増減状況

加東市全体では、平成22年から令和2年の10年間で、総人口はほとんど変わりませんが、世帯数が増えています。高齢化率も上昇しています。

年度	総人口	(参考)				高齢化率		世帯数
		0-14歳	15-64歳	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上	
2010年(H22)	40,058	5,869	25,511	8,678	4,531	21.7%	11.3%	14,360
2020年(R2)	40,214	5,205	24,360	10,649	5,446	26.5%	13.5%	17,099
増減(2020/2010)	100.4%	88.7%	95.5%	122.7%	120.2%	122.2%	119.7%	119.1%

資料) 2010年は平成22年3月末、2020年は令和2年3月末の住民基本台帳

(3) 人口増減率（2010→2020年）の分布状況

集落別では、62集落・全集落の64.6%で10年前の8割～10割未満の人口となっています。人口が増えた集落が20集落（20.8%）ある一方、76集落（79.2%）では人口は減少しています。

人口減少率	集落数	割合
0～19%	0	0.0%
20～39%	0	0.0%
40～59%	1	1.0%
60～79%	13	13.5%
80～99%	62	64.6%
100～119%	10	10.4%
120%以上	10	10.4%
計	96	

【2. 農業関係】

(1) 農地の荒廃状況

問7-2 集落の農地面積のうち、遊休農地はおおよそどの程度かをご記入ください。

市内の全農地面積 2,928 ヘクタールに対し、集落健診調査で計上された、各集落で把握する遊休農地（荒廃面積）の合計は、41 ヘクタールでした。

全農地面積 (ha)	2928.61	荒廃面積 (ha)	41.18	荒廃率	1.4%
------------	---------	-----------	-------	-----	------

注：「全農地面積」は、令和3年9月1日時点の農地台帳に登録されている現況地目が農地であるものを集計したものです。また、アンケート調査票未回収の集落分も含まれます。

「遊休農地」とは、過去1年以上作付けされず、保全管理もされていない農地とします。

(2) 国の主な地域政策の取組状況

制度名	対象集落数	実施集落数	実施率	未実施の主な理由
人・農地プラン	77	41	53%	<ul style="list-style-type: none">・プランの作成に向けて取り組んでいる。・個人で取り組むべきものである。・個々の農家の考えが異なるため。
多面的機能支払交付金制度	77	75	97%	
中山間地域等直接支払交付金制度	42	12	29%	<ul style="list-style-type: none">・多面的機能支払交付金制度を活用しているため。・利用希望者がいないため。

市内の全96集落のうち、対象となる集落数と実施済の集落数を示しています。未実施の理由は、集落健診調査で回答のあったものです。

【3. 集落の現状】

(1) 自治会の加入戸数

加東市の自治会の規模は、51～100戸が最も多く28集落（30.8%）、次いで101～500戸が26集落（28.6%）となっています。50戸以下の小規模の集落は、35集落・38.5%を占めています。

選択項目	集落数	構成率
19戸以下	4	4.4%
20～39戸	15	16.5%
40～50戸	16	17.6%
51～100戸	28	30.8%
101～500戸	26	28.6%
501戸以上	2	2.2%
小計	91	

※未回答集落1件

【地区別】集落の規模には地域性があり、東条地域では50戸以下の集落が多く、滝野地域では101戸以上の集落が多くなっています。

選択項目	社地区		福田地区		米田地区		上福田地区		鴨川地区	
	集落数	構成率	集落数	構成率	集落数	構成率	集落数	構成率	集落数	構成率
19戸以下	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	1	11.1%	0	0.0%
20～39戸	2	9.5%	0	0.0%	2	28.6%	2	22.2%	1	33.3%
40～50戸	2	9.5%	2	20.0%	1	14.3%	1	11.1%	0	0.0%
51～100戸	5	23.8%	5	50.0%	1	14.3%	3	33.3%	2	66.7%
101～500戸	12	57.1%	3	30.0%	2	28.6%	2	22.2%	0	0.0%
501戸以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
小計	21		10		7		9		3	

選択項目	滝野東地区		滝野南地区		東条東地区		東条西地区	
	集落数	構成率	集落数	構成率	集落数	構成率	集落数	構成率
19戸以下	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	1	6.7%
20～39戸	0	0.0%	0	0.0%	3	21.4%	5	33.3%
40～50戸	1	11.1%	0	0.0%	6	42.9%	3	20.0%
51～100戸	3	33.3%	1	33.3%	3	21.4%	5	33.3%
101～500戸	3	33.3%	2	66.7%	1	7.1%	1	6.7%
501戸以上	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
小計	9		3		14		15	

※未回答集落1件

(2) 住民の大半が集う寄り合い回数

問1 自治会以外の組織も含め、住民の大半が集まる「寄り合い」の年間回数
 (自治会総会と同じ日に複数組織の会合を行う場合は1回とします)

2回以下の集落が最も多く、54集落(58.7%)となっています。一方、年12回以上の開催も4集落(4.3%)あります。

選択項目	回答数	構成率
[4] 12回以上	4	4.3%
[3] 7~11回	2	2.2%
[2] 3~6回	32	34.8%
[1] 2回以下	54	58.7%
小計	92	

(3) 共同活動(作業)回数

問2 自治会以外の組織も含め、住民の大半が参加する「共同作業・活動」の年間回数(草刈、清掃、水路泥上、お祭やイベント準備、獣害柵設置等)

共同作業を年4、5回行っている集落が最も多く33集落(35.9%)、次いで年3回以下が32集落(34.8%)となっています。特徴的な作業として、草刈りや溝掃除等の環境美化活動、祭りの準備のほか、獣害柵の設置等も作業として挙げられています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
[4] 9回以上	12	13.0%	特徴的な作業 ・草刈り、芝刈り、クリーンキャンペーン ・溝掃除、道掃除(農道整備) ・墓掃除、公民館の清掃 ・柱祭り(松切り・松立て)、八幡講、観音講 ・農道整備、河川法面の伐採作業 ・獣害柵設置作業
[3] 6~8回	15	16.3%	
[2] 4~5回	33	35.9%	
[1] 3回以下	32	34.8%	
小計	92		

(4) 住民の大半が参加する行事数

問3 自治会以外の組織も含め、住民の大半が参加する年間行事開催数

(運動会、文化祭、バザー、防災訓練、お祭、とんど、神事等)

大半の住民が参加する行事としては、年2回以下が最も多く45集落(48.9%)、次いで年3~4回が26集落(28.3%)となっています。多くの行事を実施している集落では、バス旅行や花見会、ウォーキング会といった親睦交流を図るものが多く見受けられます。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
[4] 8回以上	7	7.6%	特徴的な行事 ・お堂・氏神さんを祀るお禱 ・神社の祭り(迎春、えびす祭り、夏祭り、秋祭り)、 地蔵盆、大日祭、観音祭、厄神祭 ・とんど、虫送り、こども相撲 ・夏休み工作教室、健康講座、バス旅行、花見会 人権学習会、防災訓練 ・まちかど体操、ラジオ体操、ウォーキング会、 パークゴルフ大会
[3] 5~7回	14	15.2%	
[2] 3~4回	26	28.3%	
[1] 2回以下	45	48.9%	
小計	92		

(5) 集落内の団体・組織数

問4 集落内の団体・組織について、該当するものに○をご記入ください。

(活動していない名前だけの組織は該当しません)

1. 自治会 2. 農会 3. 子供会
4. 老人会 (単独で設置している場合のみ、自治会兼務は該当しない)
5. 婦人会 (女性グループ含む) 6. 消防団 (消火・水害・災害時などの活動や啓発など)
7. 青年会 (若者～50歳代までのグループ含む)
8. 活性化 (むらおこし等の有志グループ含む)
9. 健康・運動 (グランドゴルフ、健康体操、ウォーキング等の団体)
10. 居場所づくり (ふれあい喫茶・サロン、コミュニティづくり)
11. 営農組織 (法人・任意組織、有志や一部作業共同実施含む)
12. 伝統芸能 (保存会などのグループ)
13. 自然保護 (保存会などのグループ)
14. 自主防災組織 (避難訓練や資材備蓄など機能・活動している) 15. 子ども見守り隊

集落内の団体・組織数は8団体が最も多く18集落(19.6%)、ついで7団体が13集落(14.1%)、6団体と9団体が同数で12集落(13.0%)ずつとなっています。

団体別では、92集落全てに自治会が組織され、79集落(85.9%)で消防団、75集落(81.5%)で農会が組織されています。老人会、子供会も7割以上の集落で組織されています。

団体数の多い集落では、健康・運動や居場所づくりの団体が組織されています。

注：団体数は、市に登録のある情報と乖離があります。

選択項目	回答数	構成率
10団体以上	17	18.5%
7～9団体	43	46.7%
4～6団体	22	23.9%
3団体以下	10	10.9%
小計	92	

特記事項	
組織数	1位 8団体・18集落 2位 7団体・13集落 3位 6団体/9団体・12集落 ～ 最多 13団体・2集落 最少 1団体・4集落

団体名	団体数	組織率
自治会	92	100.0%
農会	75	81.5%
子供会	71	77.2%
老人会	73	79.3%
婦人会	39	42.4%
消防団	79	85.9%
青年会	4	4.3%
活性化	5	5.4%
健康・運動	52	56.5%
居場所づくり	38	41.3%
営農組織	27	29.3%
伝統芸能	19	20.7%
自然保護	0	0.0%
自主防災組織	39	42.4%
子ども見守り隊	52	56.5%

(6) 集落の公民館からの自動車での所用時間（集落数）

問5 集落（公民館）からの自動車での所要時間をご記入ください。

（スーパーが二つある場合などは近い方の時間で結構です）

市役所および総合病院までは15分から30分未満、小学校および買い物（スーパー）までは15分未満が最も多くなっています。

所要時間	市役所	小学校	総合病院	買い物
0- 14分	40	81	38	68
15- 29分	46	11	46	24
30- 44分	6		8	
45- 59分				

(7) 空き家の状況

問6 空き家の状況について、ご記入ください。

集落が把握する空き家のうち、外見からも住める状況ではない「荒廃」が94件（21.4%）、状況が把握できていない「状況不明」が93件（21.2%）となっています。

また、家庭菜園付き空き家は、家庭菜園ができる移住先を希望される方がいるために調査したものです。集落が把握する空き家のうち、家庭菜園があるものが28件ありました。

項目	回答数	空き家数に占める割合
空き家数	439	
うち荒廃数	94	21.4%
うち状況不明	93	21.2%
うち家庭菜園付き	28	6.4%

(8) 地域農業の担い手の状況

問7-1 地域農業の担い手について、該当するものに○をご記入ください。

(複数の担い手がいる場合は、集落の農地の一番多くを担っている方を選択してください)

担い手が「いる」が52集落(56.5%)、「いない」が40集落(43.5%)となっています。集落の農地の一番多くを担っている方として、「集落営農組織」が最も多く約4割、次いで「認定農業者」が約3割となっています。

なお、集落に農地がない場合も、「担い手がない」に該当します。

項目	回答数	構成率
担い手がいる	52	56.5%
担い手がない	40	43.5%
小計	92	

農業法人	4	8.33%
集落営農組織	20	41.7%
認定農業者	16	33.3%
企業	0	0.0%
その他	8	16.7%

(9) 集落の共有財産の所有状況

問8 集落の共有財産について、該当するものに○をご記入ください。

(昔の集落役員名義等の財産や土地は個人所有だが無償借地の施設がある場合なども含みます)

集落の共有財産については、集会所が79集落(85.9%)、社寺・墓地が71集落(77.2%)、土地と農業施設機械が同数の57集落(62.0%)で保有されています。共有財産のない集落は6集落・アンケート回答92地区のうちの6.5%となっています。

項目	回答数	調査集落数に占める割合
山林	42	45.7%
土地	57	62.0%
集会所	79	85.9%
農業施設機械	57	62.0%
社寺・墓地	71	77.2%
なし	6	6.5%

(10) 集落の今後（将来）についての話し合い

問9-1 集落の今後（将来）についての話し合いをしていますか。

問9-2 今後、集落の将来について話し合いたいと思いますか。

集落の今後（将来）についての話し合いを「数回実施したことがある」が最も多く48集落（52.2%）、次いで「全くしていない」が28集落（30.4%）となっています。

今後、集落の将来について話し合いたいと「思う」が、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて9割を超えています。

【現状】

選択項目	回答数	構成率
[4] 定期的実施	13	14.1%
[3] 数回実施	48	52.2%
[2] 1回	3	3.3%
[1] 全くしていない	28	30.4%
小計	92	

【今後の意向】

選択項目	回答数	構成率
そう思う	49	53.3%
ややそう思う	35	38.0%
あまり思わない	2	2.2%
そう思わない	6	6.5%
小計	92	

特記事項

思わない理由
・若い世代の考えを聞く

【集落の将来について話し合ったことのある内容】

これまでに話し合ったことのある内容は、「高齢者、障がいのある人」についてが最も多く45件（24.2%）、次いで「災害や防災」が38件（20.4%）となっています。

その他としては農業問題が最も多く、10件・全体の5.4%となっています。

選択項目	回答数	構成率
災害や防災	38	20.4%
子どものこと	27	14.5%
高齢者、障がいのある人	45	24.2%
防犯など地域安全	33	17.7%
住民相互の支えあい、ボランティア活動	25	13.4%
その他	18	9.7%
小計	186	

特記事項

その他の内容
・農業問題（農地の管理、農業施設の維持管理、農地の維持、獣害対策）について 10件
・自治会の存続（運営、地区内の区割り、役員） 3件
・外国人への対応 2件
・共有財産 ・祀り事 ・要介護支援 各1件

【今後、集落の将来について話し合いたい内容】

今後、話し合いたい内容は、「高齢者、障がいのある人」についてが最も多く 61 件（24.5%）、次いで「災害や防災」の 51 件（20.5%）となっており、これまでに話し合ったことのある内容と同じ傾向にあります。

選択項目	回答数	構成率
災害や防災	51	20.5%
子どものこと	35	14.1%
高齢者、障がいのある人	61	24.5%
防犯など地域安全	43	17.3%
住民相互の支えあい、ボランティア活動	44	17.7%
その他	15	6.0%
小計	249	

特記事項
その他の内容 ・農業問題（営農組織、農地の維持、農業の持続化、後継者） ・行事の運営（作業参加規約等） ・自治会の運営（地区内改編、役員） ・外国人への対応 ・空き家対策 ・住民の移動手段

(11) 自治会の会合における世帯主以外の参加可否

問 10-1 自治会の会合には世帯主以外の参加が可能ですか？

「住民全体が参加可能」が 41 集落（44.6%）と最も多く、次いで「世帯主のみ」が 29 集落（31.5%）となっています。

注：この質問は、近年、過疎・高齢化の進むなか、これまでの昭和的な世帯主 1 票制から住民全員や外部人材の意見を取り入れる多様性のある自治会への転換という考えが出てきており、その実態をお聞きしたものです。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
[4] 外部人材も可	7	7.6%	参考意見 ・「世帯の代表者」が参加する。
[3] 住民全員	41	44.6%	
[2] 世帯主と配偶者	15	16.3%	
[1] 世帯主のみ	29	31.5%	
小計	92		

(12) 自治会以外も含め集落内の「女性」や「若者」の話し合いの場への参画

問 10-2 自治会以外も含め集落内に「女性」が参画する話し合いの場がありますか？

問 10-3 自治会以外も含め集落内に「若者」が参画する話し合いの場がありますか？（若者と
は50歳までとします）

問 10-4 今後、女性や若者の会合への参画や発言の機会を増やしていきたいと思いませんか。

現状として、女性や若者が参画する機会が「ない」が「あり」を上回っていますが、今後の意向としては、「発言の機会を増やしていきたい」が83集落（90.2%）となっています。

【女性・若者の会合の有無】

区分	選択項目	回答数	構成率
女性	あり	42	45.7%
	なし	50	54.3%
若者	あり	40	43.5%
	なし	52	56.5%

【今後の意向】

選択項目	回答数	構成率
そう思う	53	57.6%
ややそう思う	30	32.6%
あまり思わない	6	6.5%
そう思わない	3	3.3%

特記事項

女性・若者の発言の機会を増やしていきたいと思わない理由

- ・ 独身や高齢者が多いので無理
- ・ 呼びかけをするが、参加がない
- ・ それぞれの参加する団体内で話してもらいたい
- ・ そもそも若者がいない
- ・ 女性会に打診したら、やめてほしいと言われた

(13) 自治会の三役への役割集中と集落内組織の機能

問 11-1 自治会以外の団体や集落の仕事も、自治会の三役など一部の人に集中していますか？

問 11-2 集落内の各組織は、十分に機能していますか。

自治会以外の集落の仕事が、自治会三役に「やや集中している」が34集落（37.0%）と最も多く、「分散させている」はわずか5集落（5.4%）となっています。一方で、集落内の各組織が「機能している」が、「十分に機能している」を合わせて80集落（87.0%）となっています。

自治会の三役に、自治会以外の団体や集落の仕事が集中しており、忙しくて手が回らない、新しいことに取り組む余裕がない状況がうかがえます。

【自治会の三役などへの役割の集中】

選択項目	回答数	構成率
分散させている	5	5.4%
少し集中	22	23.9%
やや集中	34	37.0%
ほとんど集中	31	33.7%
小計	92	

【集落内組織の機能状況】

選択項目	回答数	構成率
十分に機能	9	9.8%
機能している	71	77.2%
やや機能してない	11	12.0%
全く機能してない	1	1.1%
小計	92	

(14) 地域活動のリーダーと後継者の状況

問 12-1 地域活動のリーダー（中核となる担い手）はいますか？

問 12-2 地域活動のリーダー（中核となる担い手）の後継者や後継者の候補はいますか？

地域活動の中核となる担い手が、「複数人いる」が58集落（63.0%）と最も多い一方、「あまりいない」が30集落（32.6%）となっており、状況は二極化しています。

リーダーの後継者についても、「複数人いる」が51集落（55.4%）に対して、「あまりいない」も37集落（40.2%）となっており、同様の傾向となっています。約4割の集落で、地域活動のリーダーが不足しつつある状況です。

【地域活動のリーダー】			【リーダーの後継者】		
選択項目	回答数	構成率	選択項目	回答数	構成率
複数人いる	58	63.0%	複数人いる	51	55.4%
1人いる	2	2.2%	1人いる	1	1.1%
あまりいない	30	32.6%	あまりいない	37	40.2%
全くいない	2	2.2%	全くいない	3	3.3%
小計	92		小計	92	

(15) 移住者受入希望の有無

問 13-1 地区の人口を維持するために、積極的に移住者を受け入れていきたいですか？

移住者を「受け入れたい」が61集落（67.0%）となっています。一方、「思わない」理由として、集落の慣習との違いを不安視する声が多くありました。

注：「移住者」とは、集落外から来て定住される方（世帯）、とします。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
そう思う	15	16.5%	思わない理由 ・人口維持のためだけでは、受け入れられない。将来的には若者が戻って来てくれると信じている。 ・高齢の村人と融合していくと思われない。 ・人口の増加は望まない。 ・生活環境が違いコミュニケーションが取りにくい。 ・地域の活動を理解した人の移住であれば歓迎。 ・地区の慣習を理解してもらえないか不安。 ・自治会に入会するのであればよいが。 ・人となりがわからない場合、不安。 ・無関係な人が入村されるのは抵抗がある。
ややそう思う	46	50.5%	
あまり思わない	21	23.1%	
そう思わない	9	9.9%	
小計	91		

※未回答集落1件

(16) 移住者との関係

問 13-2 移住者との関係は良好ですか。

移住者がいる集落において、「移住者と良好な関係にある」は 30 集落 (42.3%) となっています。

項目	回答数	構成率			
移住者がいる	71	77.2%	→	良い	30 42.3%
移住者がいない	20	21.7%		やや良い	34 47.9%
小計	91			やや悪い	7 9.9%
				悪い	0 0.0%

特記事項

移住者とのトラブル事例

- ・つき合いが少ない。
- ・ごみの出し方、生活環境の違い
- ・地区財産、支配割等の共同配分などの課題が生じた。
- ・飼い猫の管理
- ・言葉が通じない (外国人移住者)

※未回答集落 1 件

(17) 集落の共同作業や活動への移住者の参加状況

問 13-3 移住者は集落の共同作業や活動に参加していますか。

移住者がいる集落では、68 集落 (95.7%) で、移住者が共同作業に参加しています。集落の活動に「全く参加していない」は 3 集落 (4.2%) となっています。

項目	回答数	構成率			
移住者がいる	71	78.0%	→	全て参加	22 31.0%
移住者がいない	20	22.0%		概ね参加	29 40.8%
小計	91			一部のみ参加	17 23.9%
				参加してない	3 4.2%

特記事項

移住者への参加の呼びかけの有無等

- ・最近移住してきた人には呼びかけができていない。
- ・参加しないことを条件に移住している。
- ・呼びかけをしても、参加されない。

※未回答集落 1 件

(18) アドバイザーなど外部人材を招いた学習会や先進地視察等の実施

問 14 集落外からアドバイザーや専門家、市職員、県農業改良普及センター職員などを招いて集落の課題解決のための学習会や先進地視察などを行ったことがありますか。

外部人材を招いた学習会等を実施したことがある集落は、22 集落（24.4%）となっています。そのうち、3 集落については、定期的の実施しています。主な実施内容として、獣害対策が最も多く3件、その他、まちづくりや福祉、防災などが挙がっています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
定期的実施	3	3.3%	主な実施内容 ・福祉 ・防災 ・ごみ減量、リサイクル ・里づくり協議会としてコンサルタントを入れて活動 ・営農組合、猪対策 ・インフラ整備の過程で学習会と県外視察
数回実施	13	14.4%	
1回実施	6	6.7%	
未実施	68	75.6%	
小計	90		

※未回答集落2件

(19) 都市部の住民や団体等との交流の実施

問 15-1 都市部の住民や団体等と交流（農作業応援、収穫体験など）を行っていますか。（農作業応援を受けるボランティアから、収穫体験（有償含む）など、幅広い範囲を交流とします）

多くの集落では実施されていませんが、「定期的」または「実施したことがある」が9 集落（9.9%）となっています。その内容としては、農業関係の体験交流が最も多くなっています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
定期的実施	2	2.2%	主な実施内容 ・町づくりの会を作った時に1回（湖翠苑自治会） ・数年前に、そばの収穫祭を数回（平木地区） ・西宮市仁川学園小学校の田植え、稲刈り体験（掬鹿谷営農組織） ・収穫体験、いもほり大会（岡本営農互助会）
数回実施	4	4.4%	
1回実施	3	3.3%	
未実施	82	90.1%	
小計	91		

※未回答集落1件

問 15-2 今後、移住検討者等から希望があった場合は、交流（農作業応援、収穫体験など）の受け入れは可能ですか？

「受け入れできない」が42集落（45.7%）となっており、「受け入れできる」を上回っています。

項目	回答数	構成率	特記事項
受け入れできる	39	42.4%	その他 ・未回答 ・わからない ・その時に検討する
受け入れできない	42	45.7%	
その他	11	12.0%	
小計	92		

(20) 農産物販売促進に向けた集落のPRの実施

問 16 農産物販売促進に向けた集落のPR（インターネット、イベントでの出展など）を行ったことがありますか。

多くの集落では実施されていませんが、「定期的実施」または「実施したことがある」が5集落（5.5%）となっています。その内容としては、ゴルフトーナメント大会での販売などとなっています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
定期的実施	3	3.3%	主な実施内容 ・上三草朝市（上三草地区） ・黒豆販売（曾我地区） ・ゴルフトーナメント大会で枝豆販売（掬鹿谷地区）
数回実施	1	1.1%	
1回実施	1	1.1%	
未実施	86	94.5%	
小計	91		

※未回答集落1件

(21) 地域資源のPRの実施

問 17 集落の地域資源（棚田、自然環境、伝統文化等）のPRを行ったことがありますか。（集落活動としてだけでなく、一部の保存会や有志団体の取組を含みます）

地域資源のPRを、「定期的実施」または「実施したことがある」が14集落（15.4%）となっています。その主な内容としては、地域の伝統的なお祭りが多くなっています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
定期的実施	5	5.5%	主な実施内容 ・秋祭り（社4区） ・秋祭り、文化祭（上中地区） ・獅子舞奉納神事、天神祭（上田地区） ・鬼踊り保存会（畑地区） ・音頭、獅子舞（下滝野地区）
数回実施	4	4.4%	
1回実施	5	5.5%	
未実施	77	84.6%	
小計	91		

※未回答集落1件

問 17-2 集落において、風景、自然現象、歴史など、他に誇れる（自慢・PRできる、珍しい）地域資源があれば、その内容をご記入ください。

集落名	誇れる地域資源
田中	田中薬師堂 仏像群が市文化財に指定されています。 お堂下の砂が「蝮（マムシ）よけ」の砂として重宝されています。
家原	家原浅野家陣屋跡、観音寺（赤穂四十七士墓）
上中	上中地区のジュンテンドー店の一角に“けんじょの森”と言う祭場所があります。 詳しくはわからないが、女の神様が祭られていて、かなり力があつたと聞いたことがあります。
大門	古くからあるお堂、神社
東古瀬	祇園祭の太鼓屋台及び水引幕
畑	国宝朝光寺
廻淵	東条湖おもちゃ王国
上久米	やしろの桃
上三草	三草藩や孝女ふさの碑等
馬瀬	馬瀬住吉神社の大般若経一式を民俗資料館に寄託している。
やしろ台	私達の所は自然が豊かで、動物も猪、鹿、アライグマ、タヌキ、キツネ等が家の庭まで出て来ます。 それ以外に三ツ葉ツツジの群落があり、4～5月は花が咲き乱れています。
平木	ホタル
上滝野	闘竜灘（兵庫百選）、伝統芸能（神楽、みこし、屋太鼓）
高岡	水害の心配はいらない地形
曾我	北観音

集落名	誇れる地域資源（続き）
古家	①秋津富士からみる東条湖畔、天気良ければ明石大橋が眺めます。 ②八幡神社厄神祭、毎年2月11日（祝）に執り行います。厄年の方を特別祈禱します。餅まきをします。 ③阿弥陀堂、毎年早苗ぼり時に住職を招き、阿弥陀堂祭を執り行います。
西戸	秋津百石踊
長井	東条インターより車で5～6分の所に、新田（農地）5町が有り、高台で夕日も美しいです。
新定	安国寺の首づか
吉井	東条川沿いの桜並木
小沢	小沢城
栄枝	禅龍寺、山田錦

問 17-3 地域の魅力や取組等を、ケーブルテレビなどを活用し、地域で自ら発信していきたいというご希望はありますか？

項目	回答数	構成率
希望する	13	14.1%
希望しない	79	85.9%
小計	92	

(22) 今後の集落存続意向

問 18 今後も集落を存続させていきたいと思いませんか。

全集落が存続を希望されています。人口減少等による集落存続へのあきらめ感は見受けられません。

選択項目	回答数	構成率
存続させていきたい	62	68.1%
できるかぎり存続させていきたい	28	30.8%
存続させたいが難しいだろう	1	1.1%
存続できないだろう	0	0.0%
小計	91	

※未回答集落1件

(23) 周辺集落との連携有無

問 19-1 周辺集落と連携していることはありますか。

63 集落（69.3%）で、周辺集落との連携があります。その内容として最も多いのが農業関係（水路や農業施設の共同管理）、次いで神社・寺の管理や祭りの実施、消防活動が挙げられています。その他、コミュニティバスの運営や獣害対策で連携している事例もあります。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
よくしている	26	28.6%	主な連携内容 ・ 社連合区 ・ 佐保協議会 ・ 消防団、消防活動 ・ 防犯 ・ 交差点付近の事故防止対策 ・ 共有地の草刈り等共同管理 ・ 農業用水路、農業施設の共同管理 ・ 神社・寺の管理運営、祭りの実施 ・ 情報交換 ・ 村米の販売 ・ 三世代交流会、2 地区交流会 ・ コミュニティバスの運営 ・ 獣害対策 ・ 見守り活動、グランドゴルフ大会
たまにしている	37	40.7%	
ほとんどない	23	25.3%	
全くしていない	5	5.5%	
小計	91		

※未回答集落 1 件

(24) 今後の周辺集落との連携意向

問 19-2 今後、周辺集落と連携していきたいですか。

78 集落 (86.7%) で、周辺集落との連携を希望していますが、その多くが今のままの連携を継続することでした。その他、集落の課題解決や自治会行事の共同開催、農業分野での連携が希望として挙がりました。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
そう思う	37	41.1%	連携したいこと <ul style="list-style-type: none"> ・今のまま、今までどおりの連携を希望 ・防犯・防災活動、消防活動 ・地域安全、子ども見守り隊 ・情報交換と農業作業の相互応援 ・ため池、水路、道路の保安全管理 ・営農活動の連携、農地維持活動、農地の担い手 ・獣害対策 ・課題の共有と解決策を考えていくこと ・行事やイベント、交流 ・連携していける事が何か不明 思わない理由 <ul style="list-style-type: none"> ・格差が違う ・今のところ集落のみで出来ている ・連携したい内容が思いつかない ・住民全体としての希望はないのではと思う ・自分の部落で手一杯 ・集落ごとに考えが全く違うのに、何を連携するのか ・地区ごとに取組が運営方針が異なり、むずかしい
ややそう思う	41	45.6%	
あまり思わない	9	10.0%	
そう思わない	3	3.3%	
小計	90		

※未回答集落 2 件

(25) 旧小学校区など広域的な組織との連携有無

問 20-1 (旧) 小学校区など広域的な組織 (まちづくり協議会など) と連携していることはありますか。

58 集落 (63.0%) が、広域的な組織と連携しています。その割合は、(23)問 19-1 周辺集落との連携を下回ります。連携の内容として、まちづくり協議会や区長会での連携があります。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
よくしている	35	38.0%	主な連携内容 <ul style="list-style-type: none"> ・社地区地域づくり協議会 (夏のフェスティバル、秋祭り、赤穂義士祭、敬老会、子ども見守り隊) ・福田地区地域づくり協議会 ・福田地区区長会 ・米田ふれあい協議会 (ふれあい喫茶) ・三草ふれあい広場 (ふれあい喫茶、行事) ・鴨川地域活性推進委員会 (敬老会、三世代活動、地区運動会、祭り) ・滝野地区区長会 ・東条地域まちづくり協議会
たまにしている	23	25.0%	
ほとんどない	28	30.4%	
全くしていない	6	6.5%	
小計	92		

(26) 今後の広域的な組織との連携意向

問 20-2 今後、(旧) 小学校区など広域的な組織（まちづくり協議会など）と連携していきたいですか。

「今後、広域的な組織と連携したい」が「ややそう思う」を合わせて71集落（78.9%）となっています。これまでと同様の連携を希望する集落が多い一方、河川の草刈りや地域おこしの拠点づくりなど、新たな取組への意向もありました。また、広域的な組織との連携を希望しない理由として、「集落の規模が大きいため必要性を感じない」「地区区長会での連携で十分」という回答がありました。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
そう思う	34	37.8%	連携したいこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化、環境整備 ・ 子どもの安全確保・子ども見守り隊 ・ 今のまま、今までどおりの連携を希望 ・ 今後の自治組織のあり方等 ・ 農業者の育成と継承 ・ 小学校跡地利用・活用、地域活性化 ・ 住民交流、イベント活動 ・ 地域おこしの拠点づくり ・ 敬老事業 ・ 河川の草刈り 思わない理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区区長会での今の連携で十分 ・ 地区として大きいので必要性を感じない ・ 小中一貫校になり何を連携していくのかわからない ・ 現状以上の必要性を感じない ・ 村ごとに決めごとなど違いのある部分が多い
ややそう思う	37	41.1%	
あまり思わない	16	17.8%	
そう思わない	3	3.3%	
小計	90		

※未回答集落2件

(27) 集落の活性化に向けた取組や活動の有無

問 21-1 集落として、むらおこしや移住者の受け入れなど活性化に向けた取組や活動を行っていますか。

ほとんどの集落では、活性化に向けた取組は行っていませんが、「よくしている」と「たまにしている」が11集落(12.3%)となっています。

主な活動内容として、自治会の取組をインターネットで紹介している事例がありました。実施していない理由としては、「必要性を感じない」が最も多く、次いで「保守的なため」となっています。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
よくしている	6	6.7%	主な活動内容 ・秋祭りの前夜祭 ・自治会の取組をインターネットで紹介 実施していない理由 ・人手不足 ・財産の問題もあり合意形成が困難なため ・まだそこまで限界集落化していないため ・必要性を感じない、まだそこまで困っていない ・昔からの風習 ・話題に上がって来なかった ・集落全体の意思を統一できない ・経費の出費が増える、小さな地区なので人材がない ・活動する組織が機能しない、意識が希薄 ・新しいことに積極的な人が少ない ・保守的であるため
たまにしている	5	5.6%	
ほとんどない	40	44.4%	
全くしていない	39	43.3%	
小計	90		

※未回答集落2件

(28) 今後の集落活性化に向けた取組や活動の意向

問 21-2 今後、集落をあげて、むらおこしや移住者の受け入れなど活性化に向けた取組や活動をしていきたいと思いませんか。

集落活性化に向けた取組を「あまりしたいと思わない」が最も多く 35 集落 (38.9%)、次いで「ややしたいと思う」が 28 集落 (31.1%) となっています。

やってみたいこととして、「農産物等の PR や特産化」や「交流活動」が挙がっています。

活性化に取り組みたいと思わない理由としては、「今の地区運営だけで手一杯」や移住者とのトラブルを懸念する声がありました。

選択項目	回答数	構成率	特記事項
そう思う	9	10.0%	やってみたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 定例行事が多く、他に何ができるか検討中 ・ むらおこしで果物等の特産品を、若者中心で長期的に検討したい ・ 農業、農産物の PR ・ 話し合いの場を持つことから始めたい ・ 交流活動 ・ 移住希望者をお祭りへ招待 ・ 山林の活用 思わない理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足、人材不足 ・ 財産の問題があり合意形成が困難なため ・ 村内にそのようなムードがない ・ 集落を挙げては困難 ・ 今の地区運営だけで手一杯 ・ 現状の課題が山積し、余裕がない ・ アピールできる魅力がない ・ 人口増は希望しない ・ 住民とのトラブルを懸念 ・ 移住者によっては秩序が乱れてしまいそう ・ 集落の平穏が一番 ・ 地区財産及び支配掛等難題が発生する可能性が大
ややそう思う	28	31.1%	
あまり思わない	35	38.9%	
そう思わない	18	20.0%	
小計	90		

※未回答集落 2 件

(29) 「地域再生大作戦」の認知度

問 22 兵庫県では、過疎・高齢化の進む小規模集落の活性化に向けた「地域再生大作戦」を展開しており、アドバイザー派遣、地域活動を支援する補助金制度で集落を応援していますが、知っていますか。

選択項目	回答数	構成率
よく知っている	4	4.4%
少し知っている	21	23.1%
ほとんど知らない	24	26.4%
全く知らない	42	46.2%
小計	91	

※未回答集落1件

(30) 集落を維持・運営していく上で、特に困っていること

問 23 現在、集落を維持・運営していく上で、特に困っていることを3つご記入ください。

困っていることは、69集落で記載がありました。一つ目としては、「少子高齢化」が最も多く20集落(21.7%)、次いで「担い手」が14集落(15.2%)となっています。「担い手」で困っていることは、役員のなり手や作業の担い手不足、集落を支える若者の減少がありました。

二つ目では「農業関係」が最も多く20集落(21.7%)、次いで「少子高齢化」が13集落(14.1%)となっています。「農業関係」には、後継者や担い手不足、高齢化、農地保全、農業施設管理、獣害対策が挙がっています。三つ目では、「地域コミュニティ」が最も多く8集落(8.7%)となっています。「地域コミュニティ」には、行事への参加者減少、価値観の違い、コミュニティの希薄化、自治会活動への無関心、自治会への非加入が困っていることとして挙げられています。

項目	1つ目		2つ目		3つ目	
	回答数	構成率	回答数	構成率	回答数	構成率
少子高齢化	20	21.7%	13	14.1%	7	7.6%
担い手	14	15.2%	6	6.5%	6	6.5%
農業関係	13	14.1%	20	21.7%	7	7.6%
空き家	4	4.3%	2	2.2%	1	1.1%
集落の財産管理	3	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
世帯数の変化	3	3.3%	1	1.1%	6	6.5%
集落の財政	2	2.2%	1	1.1%	1	1.1%
地域コミュニティ	2	2.2%	9	9.8%	8	8.7%
その他	8	8.7%	11	12.0%	19	20.7%
特になし	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
合計	73	79.3%	63	68.5%	55	59.8%

記載のあった内容全ての中では、「少子高齢化」が最も多く 40 件（21.4%）、次いで「農業関係」が 34 件（18.2%）、「担い手」が 26 件（13.9%）、「地域コミュニティ」が 19 件（10.2%）となっています。

項目	回答数	構成率
少子高齢化	40	21.4%
担い手	26	13.9%
農業関係	34	18.2%
空き家	7	3.7%
集落の財産管理	3	1.6%
世帯数の変化	11	5.9%
集落の財政	4	2.1%
地域コミュニティ	19	10.2%
団体・組織の維持	4	2.1%
コロナ禍	4	2.1%
その他	35	18.7%
合計	187	100.0%

なお、地区別では、社地区、上福田地区、東条西地区では「農業関係」が最も多く、米田地区、滝野地域、東条東地区では「少子高齢化」が最も多くなっています。福田地区では「農業関係」と「少子高齢化」が、鴨川地区では「地域コミュニティ」と「担い手」がそれぞれ同数で最も多くなっています。

特筆すべき事項として、「世帯数の変化」には、「過疎化」や「世帯数の減少」に加え、「世帯数の増加」や「地区内区割りの改編」も含まれます。人口が減少している集落だけではなく、人口が増加している集落においても、課題が生じていることがわかります。

【困っていること 全文】

○少子高齢化

自治会の高齢化が進み、活動に支障が出ている。
高齢化、少子化
少子高齢化
高齢化が進み地区内の土地の維持管理が大変
若年層の人口が年々減少しており、減少が止まらない。
家からの通勤可能な雇用先がなく、若者の地区流出が続いている。雇用を産み出す企業誘致が必要。
高齢化の進み具合
子どもも今は、小学生、中学生、保育園児とそれなりにいるが、これから先は果たして。
少子高齢化
高齢化
一人暮らしの高齢者が増えていく。子供が出て行く。地域活動への参加ができなくなる。
50代以下が少なくなっている。これからどうなるか。
高齢化による病院、買い物
少子高齢化
地域住民の高齢化が進んでいる。（少子化対策、独居老人が増えている）
小学生等子供の減少。高齢者のみの家庭が増加し、若者が減少している。
高齢化が進み、作業参加が難しくなっている。
高齢者が多くなっている。
高齢化が進んでというか高齢者ばかりで若い人が入ってきませんので、困っていることも思い浮かばない状況
高齢者の増加、日役・行事の担い手が高齢化して作業や準備に時間がかかるようになってきた。
高齢化に伴うパワー不足
少子高齢化
少子化
高齢化
少子化、人口減
戸主の高齢化が進んでおり地区内の奉仕作業及び活動を継続させ、維持管理する（世代交代できる戸主はよいが出来ない戸主は永久的に付き合う）年齢規約
高齢化による作業遂行の困難化
高齢者問題（少子化含む）
少子化、子供会が成り立たない
高齢化
少子化
高齢化
高齢化
高齢化（若者が都市に出ている）
高齢化
児童が少ない

若者が少ない。社会に出ると帰って来ない人が多い。
少子高齢化
少子高齢化
子供の数が少ない

○担い手

自治会役員の担い手
役員の負担が大きくなり手が少ない。
役員のなり手
会長をして頂く人がいない。
子供見守隊の人出が足りない。
定年の延長、70才までの就労など自治会役員の高齢化に伴いできない事が増えてきている。(例、草刈りや村内の作業活動など)
リーダーが少ない
地区役員の確保が問題。原因として、退職年齢の高齢化、都市部での就職等による、後継者や若者の減少と考えている。
協同作業の人員確保
今後地域を支える若者が地域に少ない。集落の存続の問題。
高齢化が進み、奉仕作業等の出役者が減少している。
後継者が減少し、他の役員と兼任が多く負担になっている。
区長のなり手が少ない。重要な役になりたがらない。
役員の成り手の減少
地区役員のなり手が少ない。
区長の仕事が多すぎる。役所からの資料が多すぎて大変な所を他の方が見ている、区長及び村役員をしたがらない。
担い手不足
雇用延長(定年退職65歳~70歳)となり、勤務しながら地区役員(区長)として仕事量が増加し身体的なストレスが増幅する。
自治会活動等で、役員や参加してくれる人が少ないし、余り積極的でない。
村の役員のなり手(をどうするか)
在住世帯数の減少に伴う作業時の労力不足
若者不在、高齢化、1人住まいで共同作業への出席率が下がって来る。負担増。
人材
私自身会社員兼区長。地区役員での期間は長い、地元に住む時間が少なかったため、地域活動の内容がわからない。

○農業関係

農業後継者がいない。
認定農業者一人に頼っている現状。その後継者は今後の問題。
東京の人が持っている田の管理。他所の人が持っている田の管理。
後継者不足
農業の若者の担い手が少ない。
農地の耕作者の高齢化と担い手の不在。5年後には農地の荒廃が進むと思う。
農業の担い手がいなく、特定農業者が請負している田畑が多くなってきた。特定農業者がいつまでできるのかが不安である。
農業の後継者の減少
農業人口の高齢化
農業の後継者問題
非耕作者の急増により、農地、水路、道路等の保全管理が一部役員に委ねられるようになった。草刈隊を試みたが多くの協力を得ることはできなかった。
高齢化が進み、共同作業等の効率が低下した。そのため一部役員の作業が増えることになった。機械の導入も考えられるが、高価なため断念せざるを得なかった。
耕作者の高齢化
農地の保全。耕作放棄田が増える。高齢や病気で草刈り機が使えなくなったら困る。
共同作業。水田が半数になった。（農地を守ろうという）気が薄れている。理解が得られなくなっている。
農地維持管理
災害、特に猪の被害
農業後継者が不足し、農地の善良な管理が困難となりつつある。
後継者不足
農業の担い手がいないため稲作においても不安がある。
農地の耕作者の高齢化で、後継者がいない。
農業従事者の減少
若者が都会に出て行き、後継者が減少しており耕作放棄田が見込まれる。
農業後継者がいない。
農地が少なく、農業従事者が少ない上、高齢化が進んでいる。農会自体が運営できなくなっている。
農業の後継者不足
一部のため池は地区役員での草刈を行っているが、農家の高齢化により、ため池利用者による管理が困難になりつつある。
農業従事する人の年齢が高い。農業は収入にならないので、嫌々している。言われたことだけして、外に出て行きたい人が多い。
農業の継承問題
農業の持続化に向けた後継者育成
後継者
農作業を行う人材不足
後継者
後継者不足

農地の保全（営農の継続）
農地及び関連施設の管理
農業施設管理
後継
農業

○空き家

空き家の増加（さらに独居老人の増加）・害獣の住処になっている・庭の樹木が伸び放題（鳥の住処）・倒壊の危険性がある
空き家の雑草が多い。
無住の家が増加している
あと5年後には後継者がいないため空家となる家が出てくる可能性がある。
空き家対策
空き家問題
年々空き家が増えている

○集落の財産管理

地区の財産（神社、運動場、共同墓地）の維持管理。
地区で管理すべき、山林、ため池の管理
平成30年7月6日西日本豪雨の際に発生した崖崩れ（法面）を、法面所有者が放置し、現在及び将来の危険にさらされたまま推移。

○世帯数の変化

入居者が減少し、運営が出来なくなる。
世帯数が多くて困って居ります。
人口減少
過疎化
一人暮らしの高齢者が多く、これから戸数が減っていく。今できている行事が続くかどうか。
人口の減少
転入者等の関係で、集落内地区の人数に差ができて、運営上困っている。同程度に地区割する時期になっている。
人口減
若年世代の地域外居住に伴う地域の空洞化
過疎化

○集落の財政

駐車場収入が支出を下回り、運営継続が難しい見通しです。
部落の財政が年々厳しくなってきた。
財政問題
協議費維持

○地域コミュニティ

新・旧住民のつながりが少なく、考え方の違いが有り（老人・若者）
行事、活動等の参加者が少ない。（子ども中心とした行事も少子化の影響で参加が少なくなっている。）
地区住民がたくさん集まれる楽しい行事・イベントがない。
自治会活動への参加意欲が集落の人にあまりない
若者の自治に関する無関心。かかわりたくない、わずらわしい的な感じの人が多く。
イベントを色々も行いたい参加する人数が毎年減少している。原因は元気な高齢者がいない。
加東市等のイベントに参加したいが働き方が多様化しているため、人が集まらない。
従来より「隣保」による取り組みを進めてきたが、葬儀をはじめ、地域の共同作業、慣習が希薄になりかける中、コロナ禍により益々その傾向が顕著になった。
住民の意識のズレを強く感じている。いかに、住民相互のふれあい等を深めていけば良いか。
小中一貫校の開校により、地元の小学校がなくなり、校区内を結ぶシンボルがなくなり、地域のまとまりがなくなることが懸念される。
より地域の結びつきが求められる現状から逆の方向に向かうおそれ。
物事が全て多様化し、変化が早いため、地区の行事や役務への集まりが少ない
地区運営・行事に対する無関心。
新規住民の自治活動への参画
時代と共に若い人の考えが全く違って来た事
表面上まとまっているが、実際は難しい。意見が言いにくい。本音まで踏み込むと、集落営農も難しい。若い人は責任がないから考えていない。
行事に無関心な人がふえた
共同作業等が嫌で自治会から抜きたいという希望や、抜ける人、また自治会費を支払わない人も出て来た
地域コミュニティの希薄化
人間関係の構築

○団体・組織の維持

子ども会等の組織維持
シニアクラブへの参加者の減少
高齢化、老人会の存続
各種団体組織が衰退（加入者がいない）し、維持ができないため、業務（仕事）を地区へ託され負担が増大している。（簡略化した行事内容に変更）

○コロナ禍

コロナの為、農業他収入源
コロナ禍による行事縮小により今後の活動参加者の減少
コロナ禍で室内の行事、集会等が実施できない
コロナ禍

○その他

ベトナム人、高齢者ばかりになる。
若者の人数が少ないために、防災面に不安がある。
アパート住民へのゴミ処理、マナーの順守
行事遂行にあたり昔からの日程と、若者の休んでまで行事に参加するという日程調整ができない行事あり。できるだけ土、日に計画をしているのだが。
外国移住者が多く、言葉の壁や生活習慣の違いに戸惑います。注意もしづらいです。
一人暮らし家庭の増加、75歳以上の高齢者だけの家庭
災害と防災
未婚者が多い
高齢化「生活の足を守る」 車が運転できない高齢者を送迎する「買い物同行サービス」等生活の足を守る住民ボランティアを立ち上げたい
生活環境に対する意識が低い。ごみのポイ捨て、犬のふんの放置、ごみの焼却の問題への対応
山際の雑木
コープ（移動販売）は村役員、民生委員が担当しているが、大変。
皆さん個々に忙しく、時間のある方は70歳以上の方ぐらいだと思う。
みんな働いているので何をするのでも時間があわないので苦労すること
一人住まいが出来てきたこと。子供達が就職して家を出てしまうこと
子供達が成人した後に地元で働ける職場が少ない
独居老人の孤独死がここ数年で数件発生しており、老人世帯対策の強化、何か住民にできるのか？
働く所が近くにない
空き家対策のためには移住者を受け入れたいと思うが、外国人やよそ者に対する差別意識を持っている人も多く、なかなかスムーズにはいかない面もある
高齢者の安否確認、高齢者の病院・生活物資の購入への足
神社の維持
災害時の支援体制
環境保全
交通
自治会の維持（存続）の定義がはっきりしない面があるが、団体自治は「住民の自立への決意、自覚」の希薄化の中で危機管理が続くことになる。
運営は役員がいかに危機に立ち向かうかによってなされることが重要。仲良しクラブになったときに、消滅の道をたどることを痛切に感じる

(31) 集落を存続していくための意見

今後、集落を存続していくためのご意見等があれば、ご記入ください。

集落での取組として、若者の参画を促す、地区内の交流を促進するというご意見や、農産物をブランド化して収益を得る、という提案がありました。また、企業誘致が必要とするご意見も多く、働く場の確保が人口流出の防止につながるというご意見がありました。

特にありませんが、他集落ではどのような取り組みをされているのか興味があります。もう少し仕事が落ち着きましたら、地域のために活動したいとも思っています。
国道周辺において、商業施設、企業の誘致が必要。
営農の人について少人数で作業を行っているが、村の若い人に参加してもらいたい。
地区内の世帯数が増えているが、ほとんどがアパート。アパートの住民とのコミュニケーションは皆無である。なにかあれば管理会社を通しての話となる。アパートの人々との交流が今後の課題。
困っていること：①アパート住民へのゴミ処理、マナーの順守。②行事遂行にあたり、昔からの日程と若者の休んでまで行事に参加するという日程調整ができない行事あり。できるだけ(土)(日)に計画をしているのだが。③農業の担い手がいなく、特定農業者が請負している田畑が多くなってきた。特定農業者がいつまでできるのかが不安である。 アドバイス等していただければ助かります。
農地転用を自由にして、農地を宅地に変更できるようにする事。他の地区と連携をして住民の雇用を主に考え、職場を住所から30分以内ぐらいに設定すること。
①高齢化の進み具合。②農業人口の高齢化。③子どもも今は、小学生、中学生、保育園児とそれなりにいるが、これから先ははたして。とにかく、このような現状ですのでできるだけ、みんなの力を合わせてやっていくしかない。
人口流出を減少させる為、企業誘致を積極的に進め若者の就労場所を確保する事により流出を防止する。
小学校の行事には、3地区で1つとして参加している。昔からまとまっているが、祀る神社が異なるため、一緒にはなれない。将来的に、明るくない。何を活性化したらいいか、いい例があったら教えてほしい。
連携を密にして安全安心の村づくり、魅力のある農業施設
集落の維持のためには、若者の定住が必要で、敷地内又は隣接地3世代同居が有効な手段であると考え。若者のUターン定住には、多様な職種の働く場所が必要と思われる。積極的に条件整備を進め、多様な企業誘致を推進願いたい。
現在78歳で区長をしていますが私たちより若い人が何人かでも入ってくれることを願うばかりです。
このようなアンケートは全く無駄なように思う。各担当者が各集落で集会を開き、情報を収集すべきであると思う。
生まれ育った土地を好きになるような取組も必要か？これまでは、子供会→青年団→消防→村の役→老人会等々、村との付き合いがあって、村の絆が強かったが、今では、そのつき合いを無理してこなしているという思いが強い。これでは良い方向には向かえない。地域を知るにはアンケートなどより、インタビューですよ。地域の人との話しです。話し合いではないです。無駄話です。職員も地域人ですよ。
都市計画、土地利活用の見直し。調整区域の見直し。市街化を調整している区域に人口が増えるはずがない。
少子高齢化は全国で進行していて止められない。人口が減っている上に都市へ集中すれば、地方の小さな集落は消えていくことになるのは当然だと思う。名案は…？

女性の参加を推進したい。何か良い例があれば教えてほしい。
地区自治の法的な位置づけがあれば良い。
コロナ禍で行事等中止にしていました。通常にもどることが大切である。補助金がほしい。協議費を下げたい。
就職する会社が近くにあり、家を出なくても通勤できるように、会社を誘致することが一番大事であると思います。
加東市役所の各部署からの依頼書が多岐に渡り届けられる。(コロナ禍により区長会開催されず説明がない)年々増加していると思われ、自治会として負担が増加していると思う。(理解するのが辛い)アンケート調査のフィードバックを求めます。
他の地区の人との交流より、地区内の交流が大事。話し合いの仕方。若い人も意見が言えるような雰囲気があればよい。
何が良き方策なのか意見がまとまりません
いざ文章にまとめようとすれば、難しい。意見を集約されるなら、市とのコミュニケーションの場を設定する(月一回、役員会も実施)、フリートークで話し合う。地区の状況を見回る等して頂ければ幸いです。
合併、統合。今のところはだいじょうぶだが、10年、20年後を考えると。
加東市は広域であり地域差が生じるのはやむを得ないのかもしれないが、市中心部である社・滝野地区と東条地区に対する住民生活環境の整備・事業・対策に大きな差を感じる。近くも遠くも同じであるがその距離感と距離感を埋める行政サービスの配慮が少なすぎると思う。デジタル化は時代の流れであることは確かですが、それに対応できない高齢障害者への心厚い行政サービスがもっと充実されることを望みます。
①農業の改善 ②福祉の充実 ③若者の働く場所の確保 ④都市への交通の整備(道路、公共交通)
高齢化が進み、農地の管理、家の管理、共同作業への出役等々、さまざまところに影響が出てきています。若者が定着しやすいように、また高齢者が安心して住み続けられるように地区内の規約や様々な検討を行っているところです。市としても明石のような大胆な施策で住みたいと思える加東市にしてほしい。
市町村合併に伴い、集落合併も検討の時期が来たのではないか？
若い人の職場の確保と交流機会を増やすこと。男女が結婚し協力し合うことで日本の将来は明るくなる。政治はこの点に最大の努力を払う必要がある。
20年先がみえてこない
高齢化により市内バスを出してほしい

実際に取り組まれている活性化の事例のご紹介がありました。

昭和58年県の構造改善事業で始まった桃の栽培6ha。やはり高齢化による後継者問題が起りましたが、先人達の努力によりブランド化に成功し、桃栽培が経営上魅力的で30才～40才代の若者5名が入植、桃を栽培し園地の維持管理に地区の人と共同で取り組んでいる。園の地権者には借地料が入る。今年から上久米地区地域活動協議会の作業にも参加してもらっている。この様に生活基盤となりうる魅力的な農産物を考える事により若者を呼び地域の活性化につながると思う。

又、桃栽培を通じて社会貢献をしています。

- * 地域活性事業の一環として、やしろの森公園を通じ社高校生活科の生徒による、桃栽培作業、収穫、食材の提供
- * 大阪のNPO法人の就労支援
- * 就労ボランティア受け入れ
- * 市内の小学校での子供の食育

把握しているだけですが、以上の様な取組を行っている。

(上久米地区)

村としては、若者及び子どもに対する事業や企画等念入りに模索している。農会の作業においても役員のみに従事させることなく、可能な限り村全体を見渡した出役を計画的に実施し、参画の意識を充実させている。子どもにしても、子供会の役員のみならず、村全体で関わり、見守る態勢が構築されつつある。今後、将来的にも若者のパワーがものを言うことはまぎれもない事実である。このことを、今後村のリーダーはしっかり肝に銘じて行政に関わっていきたい。

(上三草地区)

令和 3 年度加東市集落健診調査に係る結果報告書

令和 4 年 3 月

加東市市民協働部人権協働課

〒673-1493 兵庫県加東市社 5 0 番地

電話 0795-43-0544

FAX 0795-42-1735

Email kyoudou@city.kato.lg.jp

URL <https://www.city.kato.lg.jp>